

Batファイルの作成

概要

ScoutCheckerBatのモジュール群のexeを逐次実行するBatファイルを作って回路図の検査を行う。
Ver0.2ではGUIがありますが、OSバージョンアップと共に見直す必要が出てくるので、OSバージョン依存しないようにBatファイルにしました。

Batファイルとは

パッチファイルと読む。
中身はテキストファイル。
拡張子を.batにするとBatファイルになる。
アイコンをダブルクリックするだけで、中に書かれた順にコマンドを実行してくれる便利なファイル。
Windows限定。

フォーマット

Batファイルのルールに従う。
Batファイルに関する情報は世の中にたくさんあるのでここでは割愛。

モジュール[半角スペース]第1引数[半角スペース]第2引数[半角スペース]第3引数[半角スペース]第4引数[半角スペース]第5引数[半角スペース]]]

半角スペースはタブに置き換えてもOKなようです。

[例]
SC_BZU.exe %BackupPath%backup_00.txt %BackupPath%backup_00.txt InputDataWSAMPLE.csv TOP "0 0 3 4 5"

各モジュールの仕様

モジュール	引数番号					説明
	1	2	3	4	5	
SC_NZUC.exe	7桁4桁 (入カバツ7774桁)	7桁4桁 (出カバツ7774桁)	7桁4桁 3(Net7桁4)	文字列(Symbol)		NetファイルからBackupファイルのUA/CAを作る。情報を生成。Symbol：回路群内の基板を特定する名前
SC_BZU.exe			7桁4桁 3(Bom7桁4)	文字列(Symbol)	文字列(Format)	BomファイルからBackupファイルのUAにデータを入れ込む。配置番号で判断してMODEI/MAKER/IMP(負載)を該当Unitに付与。Format：7桁4桁内のデフォルト値
SC_E2C.exe			7桁4桁 3(Etc7桁4)			EtcファイルからBackupファイルのCAにデータを入れ込む。Conを通知。
SC_BZU.exe			7桁4桁 3(Etc7桁4)			EtcファイルからBackupファイルのUAにデータを入れ込む。該当Unitに情報を追加。
SC_AddInfoRef2Pin.exe						UAのRefタイプUnitの情報をPinタイプUnitにコピーする。(BomFile情報はRefタイプUnitにしか追加しないので)
SC_PinCountMax2Unit.exe						UAのRefタイプUnitのPin数をカウントしてRefタイプUnitに値を設定する。(これがないとDB_HITしてないデバイスは何ヶ所も分らない。なのでpathSearchの3minのストップが効かない。)
SC_AddColFilter.exe						UAの出力用のColFilterを追加する。
SC_SearchNet2OnPin2Net.exe						Netを参照して、Netに対して接続が1個だけの場合、そのNetにNCをアサインする。
SC_PathSearchGND.exe						Net探索。GNDアサインのある端子(LOGIC:H)を基点に探索。探索先にGNDアサイン。
SC_PathSearchVCC.exe						Net探索。電源アサインのある端子(LOGIC:H)を基点に探索。探索先にVCCアサイン。
SC_PathSearchSig.exe						Net探索。未アサイン端子を基点に探索。探索先にSigアサイン。
SC_Path2PinDevFindPathList.exe						PinPin(接続)DevKeyのUnitを挿入する。
SC_CompressPath.exe						同じパスを除外。
SC_MakeLinkOfObject.exe						PageリンクをUnitに追加。
SC_MakeLinkOfSymbol.exe			7桁4桁 3(bmp_path)			HTMLファイルから見たbmpファイルの位置を各Unitに情報として追加。Resultパスからのbmpファイル参照パスを入れる。bmp_path：各回路図ファイル(MAGES)。
SC_HykoObjPow.exe						Object単位で電源の判定。
SC_MakeResuOfDir.exe			7桁4桁 3(resultn 3)			Pathを作っているものでJudgeの前。Judgeでファイル出力している。
SC_CopySymbolImageFile.exe			7桁4桁 3(1桁 3)	7桁4桁 3(resultn 3)		Resultパスの下にbmpファイルをコピー。(Resultディレクトリでファイルが重複するように)
SC_OutputCSS.exe			7桁4桁 3(resultn 3)			CSSファイル出力。
SC_OutTXTNetList.exe			7桁4桁 3(resultn 3)			Type#NetのUnitについてHTMLファイル出力。
SC_OutTXTPinList.exe			7桁4桁 3(resultn 3)			Type#PinのUnitについてHTMLファイル出力。
SC_OutTXTRefList.exe			7桁4桁 3(resultn 3)			Type#RefのUnitについてHTMLファイル出力。

現状、環境に合わせて変更が必要なもの

変更を推奨しない箇所

Bomファイルの引数

SC_BZU.exeモジュールの第5引数のFormatとは
Bomファイル内のデータの並び情報です。

並びのルールは以下になります。

1文字目	2文字目	3文字目	4文字目	5文字目	6文字目
スタート行	半角スペース	配置番号の列	VALUEの列	メーカーの列	負数の列

注意事項

同じ列を指定しても不都合はありません。同じ情報が複数箇所にアサインされるだけです。
ダブルクォーテーションで括って入れてください。

バックアップファイル

ScoutCheckerBatで対象にしているプロジェクト情報の全てを格納しています。
基本的に全部同じファイルを指定して上書きで構いません。

全モジュールが入バックアップファイルの中身を参照するので
開始時のファイルだけは空っぽファイルを指定してスタートした方がいいです。

サンプルプロジェクトのBatファイル解説

